
狂い人形

綾虎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狂い人形

【Nコード】

N9564R

【作者名】

綾虎

【あらすじ】

これは、狂ってしまった、ある一人の人物の最期。

(前書き)

若干グロ注意です。

ちよっと、グロいのがいやな方は、回れ右を推奨します。

犯罪者って、こんな風に思うのかな？ そんなコンセプトで描かせていただきました。

——運命とは、時として残酷である。

それを身に痛感したのは、小学三年生のときであった。自分は生まれつき、両足がなかった。いや、遺伝子が異常をきたし、両足を切断せざるを得なかったのだ。

だから、自分は皆と同じように走れなかった。

——人は義理深く、時として、裏切りを行う。

これを身に改めて刷り込ませてくれたのは、中学三年生のときであった。その頃、自分は、義足で歩けるようになる程度になっていた。

……けれど、ある一人が自分の義足を見て、こう言った。

「足が無いって、不便なことか？」

そう。それは、自分にとっては苦痛でしかなかった。自分は知っている。足が無ければ、何もかもが不便であることを。

自分は、それを聞いてきた友に言った。「凄く、不便で辛い」と。その友は、俺に言った。

「嘔吐きめ」

——嘔吐き——

その言葉は、自分にとってかなり辛かった。嘔吐についていないのに、嘔吐についている、と言われた。

——何でだよ……！！

心の底から、叫んでやりたかった。ふざけるなって。足の無い自分にとって、そんなことで嘔吐をつけるわけが無いからだ。だが、友は俺にこう言った。

「足のついてない偽善が、足のついたやつのことを語るな。不謹慎

にも甚だしい」

「好きで、足がついてないわけじゃない……！」

「聞こえないぞ？ 偽善者」

偽善者。その言葉だけが大きく聞こえた。そして、憤りを覚えた。憤怒の感情を。その友は友ではなく、自分の目には、“敵”としか捕らえられなくなってしまった。

「お前に、何がわかる……！」

——そして、狂ってしまったら、後には戻れない。

「あ？」

俺は立ち上がって、友だった者の腹を思いっきり蹴り飛ばした。アバラが折れて、歪な音が出る。人間の体はこんなにも簡単に壊れるものなのか。

偽者に負けるくらい、偽善者に勝てないほど弱いものだったのか……！ そうわかった瞬間に、自分は。俺は。僕は——。

「立ってみなよ、本物の足を持ってるんだ、僕より早く立てないとおかしいだろう！？」

壊れてしまったんだ。ピースが欠けてしまったジグソーパズルのように。

——立ち上がろうとする、相手の腹を思いっきり蹴飛ばして、折れる肋骨の音に悦樂を……！！

——そして、容赦を許さない自分に許しを請うように恐怖に満ちた表情が……！！

たまらなく楽しかった。だから、トイレでも遊んであげた。ぐしやぐしやに原形をとどめないほどに。壊しつくした。これでもか、これでもかと言うくらいに。

もう、自分を思ってもらう親など、どうしてもよかった。ただ、壊したかった。己の敵と思う存在を。

「懐かしいなあ……」

もうすぐ、死刑が執行される……。目を隠され、首を縄に通す。同じ様な事をして、捕まって。あれから、10年以上たった今。人生にフィナーレを打とうとしている。

「何か、言い残すことは？」

そばにいた、誰かが自分に話しかけてくれている。その声に、抑揚は無かった。今まで、多くの死人をこの場で、その目で見てきたのだろう。濁りきっている。俺の目は、今。どうなってるんだろう？

——同じ過ちは、繰り返してほしくない。そう思うのは傲慢か？ 牢獄の中で、何回も繰り返した質問だ。けど、今だったら、その傲慢も貫き通せそうだ。

「なら、最後にひとつ」

「なんででしょう？」

「僕みたいな狂った人間を生み出さない世の中にしてほしいな。この国を」

「……。精進しましょう。時間です」

そして、ギロチンの鈴の音が鳴り響く……。

——なんだ。もう、おしまいかな。

(後書き)

たまに、こういうのを書いていこうと思います。
なのはやISの二次創作も書いてるので、よろしくです。
では、また。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9564r/>

狂い人形

2011年11月10日20時37分発行